

● 少子高齢化が進む21世紀にふさわしい働き方

介護離職の問題

労働人口不足

= ライフステージや個人の希望・能力に応じて、柔軟に多様な働き方を選択できること

つまり…

- ・労働者が個々の抱える事情に合わせてフルタイム労働とパートタイム労働を相互に行き来できること

「均等待遇」の基盤が不可欠！

- ・労働時間の短縮を進め、誰もが働きがいを持って人間らしく働けること
(ディーセント・ワークの確立)

「多様な働き方」の実現には・・・

→ **「マネジメント」と「制度」の両輪が大事！**

企業のマネジメント発揮

あらゆる労働者がそれぞれの持てる能力を発揮しながら働き続けられる環境作りを、企業のマネジメントを通じて実現する

しっかりとした制度の整備

法制度をしっかりとした水準で整備・確立することによって企業のマネジメント向上を促す

**長時間労働の是正
が急務！**

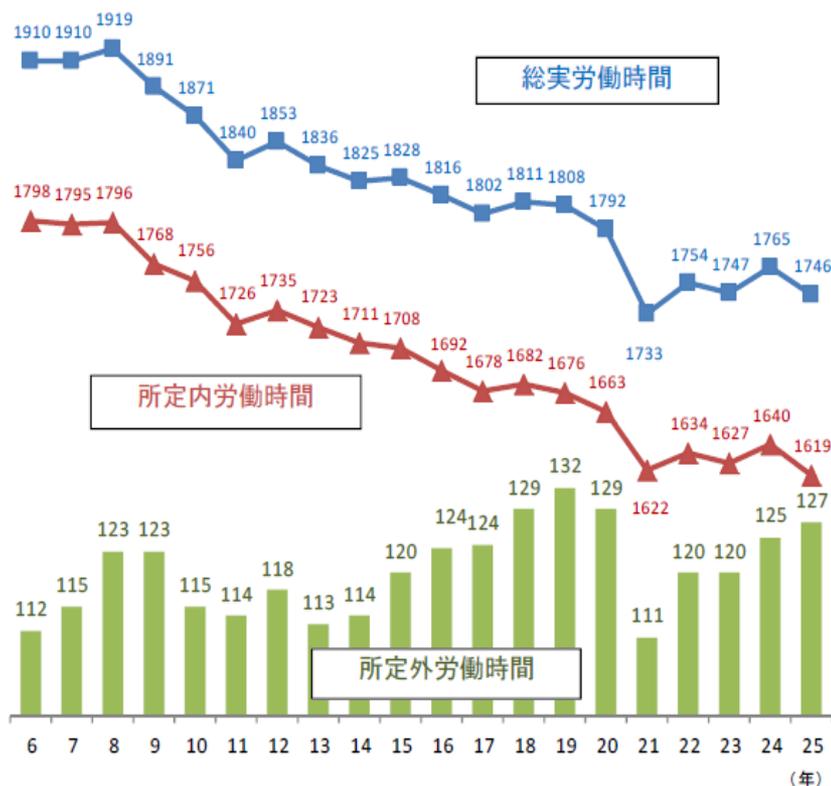
両者の相乗効果によるマネジメントの高度化！

→ 様々な事情を抱えたすべての労働者が無理なく働けるよう、
労働時間のあり方の見直し 業務分担の見直し 人事運用の見直し等を行う

【参考】長時間労働の現状

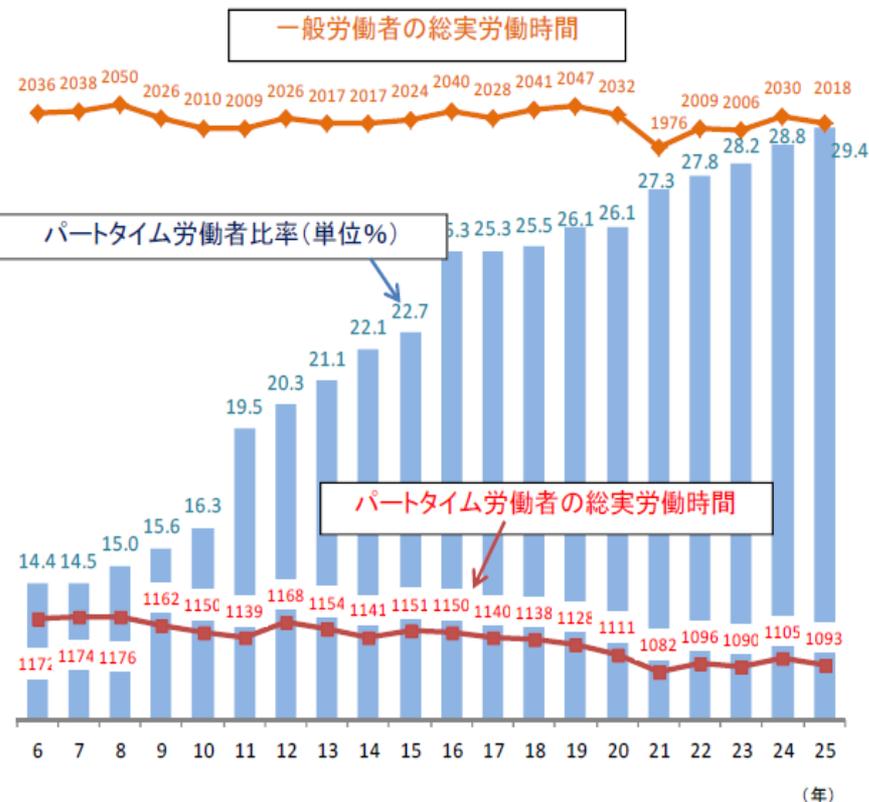
パートタイム労働者の比率が高まったことで年間の労働時間数は減少傾向にあるものの、一般労働者についてはここ20年ほぼ横ばいで、2000時間超の高水準で推移している。

年間総実労働時間の推移(パートタイム労働者を含む)



(資料出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」
(注) 事業所規模5人以上

就業形態別年間総実労働時間及びパートタイム労働者比率の推移



(資料出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」
(注) 事業所規模5人以上

【参考】派遣労働者の本音(希望する働き方)

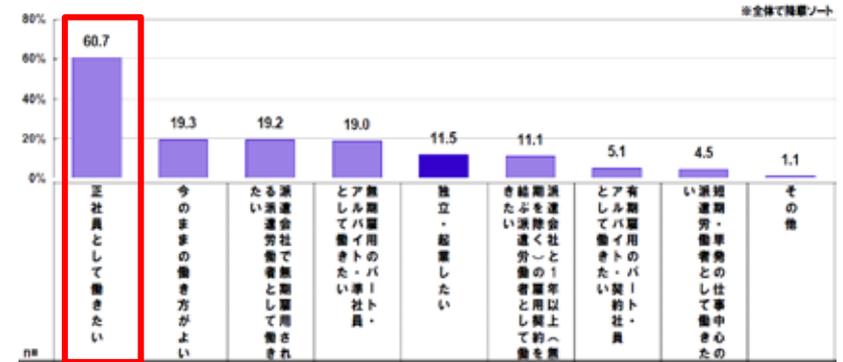
インターネット調査による派遣労働者の直接回答

1位 「正社員として働きたい」 60.7%

2位 「今のままの働き方がよい」 19.3%

：

出所：厚生労働省職業安定局需給調整事業課「派遣労働者実態調査」
(インターネットを利用したアンケート調査)(2013年3月)



事業所経由での配付調査による派遣労働者の回答

1位 「派遣社員でなく正社員として働きたい」 43.2%

2位 「派遣労働者として働きたい」 43.1%

：

出所：厚生労働省「平成24年派遣労働者実態調査」

2014年11月「連合 過労死等防止啓発特別行動月間」の取り組み

“過労死ゼロ”宣言

連合に加盟する構成組織・地方連合会で過労死等の撲滅に向けた取り組みとして
今後過労死等が起きない健康で安全な職場を維持・実現することを誓い
「**自組織内から過労死等を出させない**」旨の宣言を採択

構成組織 関係	30構成組織	8694組織
地方連合会 関係	35地方連合会	159組織
合計		8853組織

(2014年12月26日現在)

**【参考】地方議会における「労働者保護ルール改悪反対を
求める意見書」採択に向けた取り組み**



連合は、地方議会において、以下の事項を主な内容とする「**労働者保護
ルール改悪反対を求める意見書**」の採択が行われるべく、取り組み実施。

「解雇の金銭解決制度」や「ホワイトカラー・エグゼンプション」、解雇しやすい正社員を増やす観点からの「限定正社員」制度などの導入は行うべきではないこと

低賃金や低処遇のままの派遣労働の拡大につながりかねない労働者派遣法改正は行うべきではないこと

雇用・労働政策に係る議論はILOの三者構成主義に則り労政審で行われるべきであること

地方連合会を中心とする積極的な取り組みの結果・・・

**都道府県議会のうち16議会、
市町村議会のうち275議会において意見書採択**

(2015年1月31日現在、請願・陳情採択も含む)